(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3565522号

(P3565522)

(45)発行日　平成16年9月15日(2004.9.15)　(24)登録日　平成16年6月18日(2004.6.18)

(51)Int.Cl.[7]　F I

A47B 95/02　A47B 95/02　504D

// H04N 5/64　A47B 95/02　503A

A47B 95/02　505B

H04N 5/64　571N

請求項の数 3　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願平7-205067

(22)出願日　平成7年7月20日(1995.7.20)

(65)公開番号　特開平9-28485

(43)公開日　平成9年2月4日(1997.2.4)

審査請求日　平成13年8月6日(2001.8.6)

(73)特許権者　000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川６丁目７番３５号

(73)特許権者　000135209
株式会社ニフコ
神奈川県横浜市戸塚区舞岡町１８４番地１

(74)代理人　100088708
弁理士　山本　秀樹

(72)発明者　小泉　英嗣
東京都品川区北品川６丁目７番３５号　ソニー株式会社内

(72)発明者　西澤　聡
神奈川県横浜市戸塚区舞岡町１８４番地１　株式会社ニフコ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】手掛け部材

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

前面側および上側が幅方向に長く開口した本体部分と、前記本体部分の背面側に薄肉状のヒンジ部を介して連結された指を差し込むための空間部拡張用の袋状部分とを備え、前記袋状部分が前記ヒンジ部を支点として回動され前記本体部分の上側開口を閉じた状態で係止されて製品形状となり、この状態でキャビネットに設けられた取付開口部に組み付けられる手掛け部材において、

前記本体部分の前面開口縁に沿って前記取付開口部より大きい枠状のフランジ部を形成し、該フランジ部を構成している上片部の裏面側と前記袋状部分の回動端側とに各々設けられて互いに係合可能な第１の係止手段を有し、この係止手段により前記本体部分に前記袋状部分を係止することを特徴とする手掛け部材。

【請求項２】

前記第１の係止手段とともに、前記本体部分と前記袋状部分との各側部に各々設けられて互いに係合可能な第２の係止手段を有している請求項１に記載の手掛け部材。

【請求項３】

前記本体部分の下外面側に突設されて、前記取付開口部の対応壁縁を前記フランジ部との間で挟持可能な弾性挟持片と、前記袋状部分の回動端外面側に突設されて、前記取付開口部の対応端面に圧接する複数の当接片とを有し、前記取付開口部に対し、前記製品形状の手掛け部材が前記フランジ部で挿入量を規制されるとともに、前記弾性挟持片および当接片を介して組み付けられた状態に保持される請求項１又は２に記載の手掛け部材。

【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、手掛け部材に関し、特に指を差し込むための空間部を大きく確保できるようにした手掛け部材に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
この種の手掛け部材は、図１３に例示する如く比較的大きく重いもの、例えば、据置形テレビ５０等の左右両側に取り付けられて、テレビ５０を移動させたり持ち上げる際にここに指を掛けて支えるためのものであり、従来より色々のタイプのものが開発されている。
【０００３】
図１４（ａ）は典型例を示し、図１４（ｂ）はその改良例を示している。同図（ａ）の手掛け部材５１は、前面フランジ部５２付き容器状の本体５３からなり、テレビ５０等のハウジングないしはキャビネット５４に設けられた取付開口部５５に挿入し、キャビネット５４に対し接着剤５６などを用いて固定されている。本体５３の内空間部５７は、前面開口から複数本の指を差し込んだ際に支え易くするため斜め上向きに延びている。符号５８はその差し込まれた指が上向きに支えるための部分であり、一般的にこの部分５８が大きくなるほど好ましい。ところが、これを用いるハウジングないしはキャビネット５４内は、内蔵される機器部品等との関係上、手掛け部材５１用の奥行きスペースＤ１が制約されている。このため、奥行きスペースＤ１を一定とした場合、符号５８のエリアを拡大するため本体５３を上斜めにさらに屈曲させると、樹脂を用いて金型成形する際に成形型構造が複雑になり、成形性に問題が生ずる。
【０００４】
同図（ｂ）は特開平６－１０５２５８号に示された手掛け部材６１であり、前記成形型を複雑にすることなく、前記符号５８に対応する部分６９を大きくできるようにした例である。すなわち、この手掛け部材６１は、前面側および上側が開口した本体部分６２と、本体部分６２に薄肉状ヒンジ部６３を介して連結された空間部拡張用の袋状部分６４とを一体成形することにより金型成形を容易に行えるようにしたものであり、成形後に袋状部分６４をヒンジ部６３を支点として想像線の位置から矢印方向へ回動し、本体部分６４の上側開口を閉じた状態で製品形状にし、この状態でキャビネット６５に設けられた取付開口部６６に組み付けられる。
【０００５】
本体部分６２と袋状部分６４とは、各々の両側部に設けられて互いに係合可能な不図示の係止手段により実線位置で係止されている。取付開口部６６への組み付けは樹脂弾性を利用した係合構造が採用されている。袋状部分６４の回動端外面には取付開口部６６の上壁縁に沿って設けられた係合部６６ａに対応する溝部６４ａが形成される一方、本体部分６２の下部外面には取付開口部６６の下壁縁に沿って設けられた係合部６６ｂに対応する溝部６２ａが形成されている。そして、手掛け部材６１は、取付開口部６６に対応させて、係合部６６ａを溝部６４ａ内に、係合部６６ｂを溝部６２内に各々弾性的に押し込めて上下で係合する。なお、符号６７は本体部分６２の前面開口を開閉する前蓋であり、本体部分６２の両側下部に軸支され、不図示の付勢手段とストッパーにより通常は実線位置に配置されるとともに、指を差し込む使用時に前記付勢手段に抗して本体部分６２の内空間部６８内へ回動される。
【０００６】
【発明が解決しようとする課題】
後者の手掛け部材６１は、袋状部分６４が成形後にヒンジ部６３を介して本体部分６２に回動されて製品形状になることから、奥行きスペースＤ２が制約される場合、型成形性を損ねることなく指を上向きに差し込む部分６９を拡張することができる。ところが、本体部分６２が内部空間６８の前面から上側が何もない状態で形成されている関係で、袋状部分６４を製品形状に保持する係止構造としては各々の側部を利用して、両側に設けられた

係止手段のみで係止しなければならず、４－５本の指ないしは手自体が差し込み可能な幅寸法にした場合、製品形状にしたときに本体部分６２に対する袋状部分６４の十分な係止力を付与でき難かった。また、キャビネット６５への組み付け構造は、前者の接着やネジ等を用いない係合構造を採用しているものの、各溝部６２ａ，６４ａに取付開口部６６の対応する壁縁を各々弾性的に溝内に押し込めることから、取付開口部６６の形状が複雑になり、組み付け作業に時間がかかり、組み付け状態での外観が前者の如くフランジ部５２で縁取りするタイプに比べて問題になり易かった。

【０００７】

そこで、本発明の目的は、特に、指を上向きに差し込む空間部が袋状部分により拡張されるタイプにおいて、製品形状にした状態で本体部分に袋状部分を強い係止力で一体化できるとともに、キャビネットの取付開口部への組み付け作業性、外観性を向上できる構造にした手掛け部材を提供することにある。

【０００８】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本発明は、前面側および上側が幅方向に長く開口した本体部分と、前記本体部分の背面側に薄肉状のヒンジ部を介して連結された指を差し込むための空間部拡張用の袋状部分とを備え、前記袋状部分が前記ヒンジ部を支点として回動され前記本体部分の上側開口を閉じた状態で係止されて製品形状となり、この状態でキャビネットに設けられた取付開口部に組み付けられる手掛け部材において、前記本体部分の前面開口縁に沿って前記取付開口部より大きい枠状のフランジ部を形成し、該フランジ部を構成している上片部の裏面側と前記袋状部分の回動端側とに各々設けられて互いに係合可能な第１の係止手段を有し、この係止手段により前記本体部分に前記袋状部分を係止するようにしたものである。

【０００９】

以上の本発明構成においては、前記第１の係止手段とともに、前記本体部分と前記袋状部分との各側部に各々設けられて互いに係合可能な第２の係止手段を有していることが好ましい。

また、組み付け構造的には、前記本体部分の下外面側に突設されて、前記取付開口部の対応壁縁を前記フランジ部との間で挟持可能な弾性挟持片と、前記袋状部分の回動端外面側に突設されて、前記取付開口部の対応端面に圧接する複数の当接片とを有し、前記取付開口部に対し、前記製品形状の手掛け部材が前記フランジ部で挿入量を規制されるとともに、前記弾性挟持片および当接片を介して組み付けられた状態に保持されることが好ましい。

【００１０】

前記本発明構成によれば、袋状部分は、本体部分に対し、回動端側が第１の係止手段により係合されることから、指を上向きに差し込む空間部が袋状部分により拡張されるタイプにおいて、特に幅方向（左右方向）に長くなる場合であっても、確実かつ強固に一体化される。この場合、側部が第２の係止手段により係合されるようにすればより一体化が図られる。

【００１１】

また、キャビネット側に組み付ける場合は、製品形状にした手掛け部材を、袋状部分をキャビネットの取付開口部内に挿入して袋状部分とフランジ部との間に取付開口部の上壁縁を位置させて、上側に押しながら本体部分をフランジ部が取付開口縁に当たるまで後方へ押す。すると、前記弾性挟持片が取付開口部の下側縁に対し弾性変位しつつ乗り越えて、フランジ部との間で挟持し、同時に、前記複数の当接片が取付開口部の上端面に圧接する。したがって、手掛け部材は、指を上向きに差し込む空間部が袋状部分により拡張されるタイプにおいて、特に幅方向（左右方向）に長くなる場合であっても、取付開口部にワンタッチ操作で、かつ幅方向の部分に設けられている弾性挟持片および複数の当接片により確実に係止される。組み付けた状態では、本体部分の前面開口縁に沿って形成されたフランジ部がキャビネットの取付開口部縁を覆うことから、取付開口部の縁取り作用をなす。

【００１２】
【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施の形態例について図面を用いて説明する。
図１乃至図１２は本発明に係る手掛け部材の実施形態例を示すもので、図１は手掛け部材をキャビネット側に組み付けた状態で示し、図２乃至図６は成形した状態で示し、図７乃至図１２は製品形状にした状態で示している。なお、以下の構成説明では、全体を概説した後、要部毎に作用とともに詳述する。
【００１３】
この手掛け部材１は、樹脂の射出成形体からなっていて、本体部分２の背面上部にヒンジ部３を介して空間部拡張用の袋状部分４が一体に形成されており、袋状部分４がヒンジ部３を支点として回動操作され本体部分２の上側開口を閉じた状態で係止されて製品形状となる。
【００１４】
本体部分２は、前面開口を縁取る枠状のフランジ部５を有し、内空間部６が４－５本の指ないしは手自体が挿入可能な程度まで幅方向に長く設定され、傾斜下面部７と両側部８と背面部９とにより区画形成されるとともに、上側が開口形成されている。符号７ａは傾斜下面部７の略中間外面に突出されたリブであり、内部空間６側の内面に凹状として表れている。符号７ｂは傾斜下面部７の外面とフランジ部５裏面との間に後述する弾性挟持片１７との関係で設けられたリブであり、符号８ａは両側部８の外面にあってフランジ部５裏面に対抗して突出されたリブである。
【００１５】
これに対し、袋状部分４は、本体部分２とほぼ同じ幅で断面が略Ｕ字状をなし、背面部９の上側中間部分に薄肉状のヒンジ部３を介して連結された状態で一体に型成形され、前記製品形状にしたとき内空間部６に連通する空間部１０を有している。袋状部分４の回動端１１側は平坦フランジ状に形成されており、前記製品形状にしたときにその端面がフランジ部５を構成している上片部５ａに面接可能になっている。
【００１６】
（製品形状での係止構造）本体部分２に対する袋状部分４の係止構造としては、幅方向の部分で連結する２個の第１の係止手段１３とともに、側部で連結する２個の第２の係止手段１２で行なわれる。第２の係止手段１２は、本体部分２の両側部８にあって上縁略中間部に各々設けられた突起１４に対し、袋状部分４の両側開口縁に突片１５が上向きに突設され、その突片１５の内側に形成された係止孔１５ａを弾性的に係合するものであり、本体部分２と袋状部分４とを各両側において一体に係止しその係止状態を保持する。第１の係止手段１３は、フランジ部５の上片部５ａ裏面にあって幅方向に略３等分する位置に各々設けられた２個の鉤状突起片１６と、袋状部分４の回動端１１にあって各突起片１６と対応して設けられた係止孔１１ａとからなる。この第１の係止手段１３は、製品形状にしたとき、つまり袋状部分４がヒンジ部３を支点として図６の矢印方向へ回動操作されたときに各係止孔１１ａと各突起片１６の上向き先端部分とが係合し、本体部分２と袋状部分４とを幅方向において一体に係止しその係止状態を保持する。
【００１７】
したがって、手掛け部材１は、前記製品形状において、袋状部分４が本体部分２に対し、両側が第２の係止手段１２で係止され、幅方向の部分が第１の係止手段１３で係止されることから、ヒンジ部３を除く周囲部が合計４箇所で確実かつ強固に一体化される。また、各係止手段１２，１３はフランジ部５の裏面側に位置していることから、突起片１６や係止孔１５ａ付きの突片１５の突出量を大きくしても本体部分２の前面側から目視されない。
【００１８】
（キャビネットへの組み付け構造）前記製品形状になった手掛け部材１は、図１６の如くテレビ等のハウジングないしはキャビネットに組み付けられる。この場合、キャビネット２５には図１に示す如く矩形状の取付開口部２６が設けられており、そこに前記製品形状

の手掛け部材１が押し込み操作のみで係合される組み付け構造を採用している。以下、その構造を説明する。

【００１９】

手掛け部材１は、取付開口部２６に対し主に下部側と上部側とで係合可能になっている。下部側の係合構造は、本体部分２の傾斜下面部７外面にあってフランジ部５と対抗して２箇所に設けられた弾性挟持片１７を介して行なわれる。各弾性挟持片１７は、両側に設けられたリブ７ｂ，リブ７ｂの間に位置し、フランジ部５から離れる端部が各リブ７ｂに連結されている。またその連結部から中間部にかけて形成されたスリット１７ａを介して上下に弾性変位し易くなっている。弾性挟持片１７の先端部１７ｂは、フランジ部５の裏面に対し隙間をおいて平行に折曲げられている。この隙間は取付開口部２６の下壁縁の厚さにほぼ一致している。

【００２０】

上部側の係合構造は、袋状部分４の回動端１１外面にあって幅方向に突設された当接片１８により行なわれる。この当接片１８は図７等に示す如く所定間隔に６個設けられており、前記係止孔１１ａを縁取るために設けられたリブ１１ｂよりも高く立設されている。また図７等の製品形状ではフランジ部５と袋状部分４の膨出外面４ａとの間に位置している。

【００２１】

組み付け操作は、袋状部分４をキャビネット２５の取付開口部２６内に挿入して膨出外面４ａとフランジ部５との間に取付開口部２６の上壁縁を位置させて、本体部分２を上側に押しながら後方へ押し込める。フランジ部５が取付開口部２６の縁部に当たって規制されるとき、各弾性挟持片１７はその先端部１７ｂが取付開口部２６の下壁縁に対し弾性変位しつつ乗り越えてフランジ部５との間で挟持し、同時に、前記複数の当接片１８は取付開口部２６の上端面に圧接する。

【００２２】

したがって、手掛け部材１は、取付開口部２６にワンタッチ操作で組み付けられ、かつ幅方向の部分に設けられている２個の弾性挟持片１７および複数の当接片１８により確実・強固に係止される。この状態では図１に示す如く取付開口部２６の上壁縁はフランジ部５の上片部５ａと袋状部分４の膨出外面４ａとの間に位置していることから、当接片１８の圧接力よりも大きな抜け方向の外力が加わっても外れることがない。外観的には、本体部分２のフランジ部５が取付開口部２６の開口縁を覆って縁取り作用をなしていることから、見栄えもよい。なお、この実施例では前記両側部８に設けられたリブ８ａにより、フランジ部５との間に取付開口部２６の対応する側壁縁を挟持するようになっている。

【００２３】

そして、手掛け部材１を使用する場合は、４－５本の指ないしは手自体を内空間部６を通って袋状部分４の空間部９内まで差し込んで支持することができるので、この状態でテレビ等の物品を安定して持ち上げたり、移動できる。

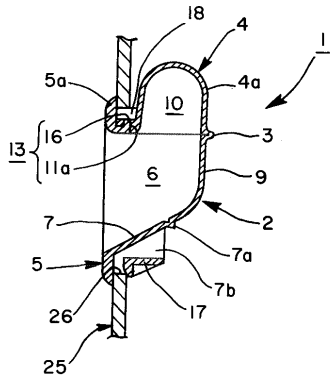
【００２４】

【発明の効果】

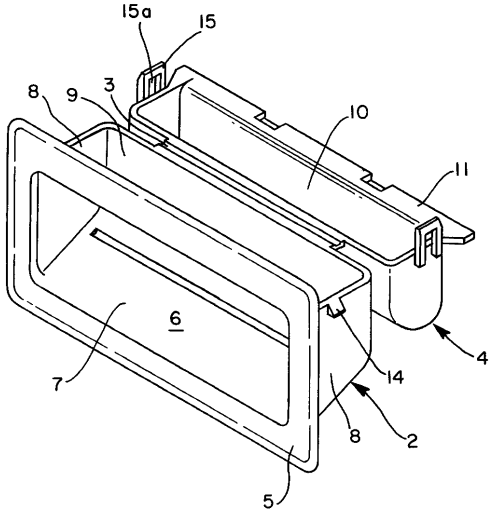
以上説明したとおり、本発明の手掛け部材によれば、指を差し込む開口が袋状部分により拡張されるタイプで、特に幅方向（左右方向）に長くなる場合であっても、本体部分の前面開口縁に沿って形成されたフランジ部の上片部裏面側と前記袋状部分の回動端側とに各々設けられて互いに係合可能な第１の係止手段を設けたことから、袋状部分が本体部分に対し、長い幅方向で係止されて確実かつ強固に一体化される。この場合、第１の係止手段とともに第２の係止手段を有することにより、ヒンジ部を除く各周囲部が各々係止されるので、一体化がより図られる。また、キャビネット側に組み付けた状態では、前記フランジ部がキャビネットの取付開口部縁を覆うことから、取付開口部の縁取り作用をなし、外観を向上できる。しかも、組み付け構造的には請求項３により、手掛け部材が特に幅方向（左右方向）に長くなる場合であっても、キャビネットの取付開口部にワンタッチ操作で、かつ幅方向の部分に設けられている弾性挟持片および複数の当接片により確実に係止で

きる。
なお、本発明は、本体部分に袋状部分をヒンジ部を介して連結し、指を上向きに差し込む空間部を袋状部分により拡張されるようにしたタイプであることから、図１４（ｂ）の従来構成と同様にキャビネット内に取付開口部の奥行き寸法を抑えて、指を挿入する距離を十分大きく確保できること、樹脂成形用の金型構成が簡易になり、安価に提供できることは勿論である。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明に係る手掛け部材の実施形態例を使用状態で示す断面図である。
【図２】前記手掛け部材の外観を成形した状態で示す概略斜視図である。
【図３】前記手掛け部材を成形した状態で示す側面図である。
【図４】前記手掛け部材を成形した状態で示す正面図である。
【図５】前記図４のＡ－Ａ線に沿う断面図である。
【図６】前記図４のＢ－Ｂ線に沿う断面図である。
【図７】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す概略斜視図である。
【図８】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す側面図である。
【図９】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す正面図である。
【図１０】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す背面図である。
【図１１】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す上面図である。
【図１２】前記手掛け部材を使用するときの製品形状で示す下面図である。
【図１３】前記手掛け部材の適用例を示す概略斜視図である。
【図１４】従来手掛け部材の２例を示す断面図である。
【符号の説明】
１　手掛け部材
２　　本体部分
３　ヒンジ部
４　袋状部分
５　フランジ部
１２　第２の係止手段
１３　第１の係止手段
１７　弾性挟持片
１８　当接片
２５　キャビネット
２６　取付開口部

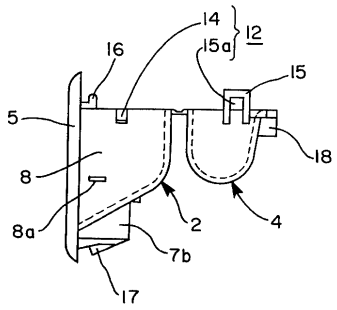
【図１】



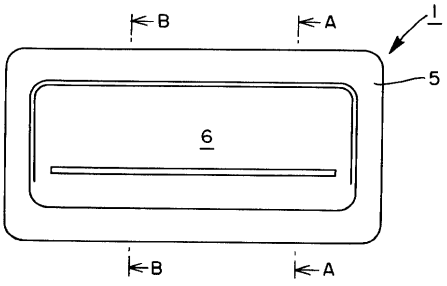
【図２】



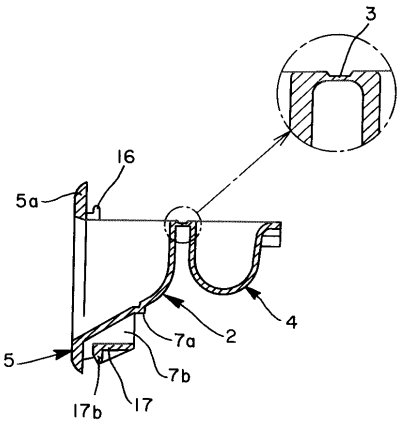
【図３】



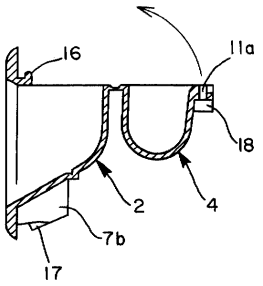
【図４】



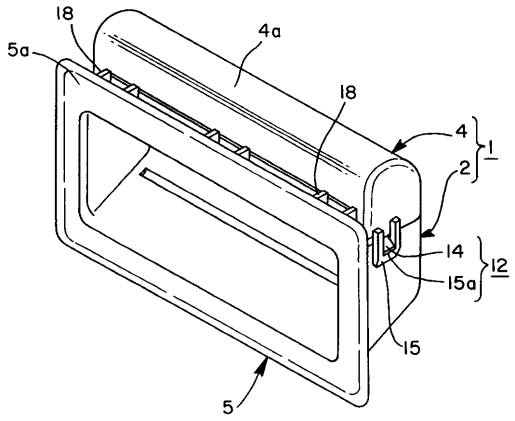
【図５】



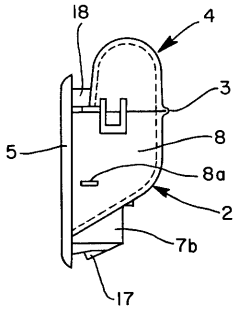
【図６】



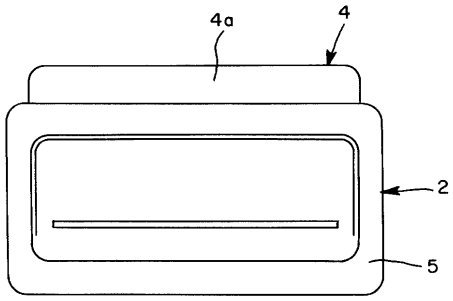
【図７】



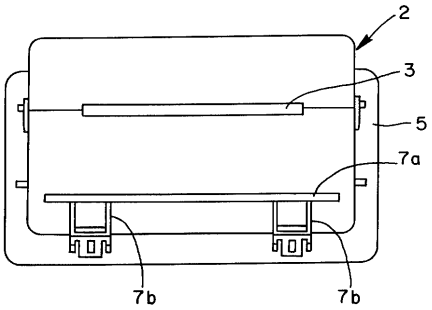
【図８】



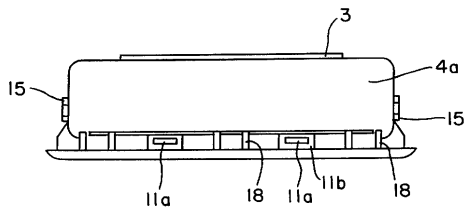
【図９】



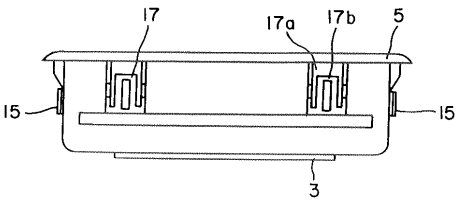
【図１０】



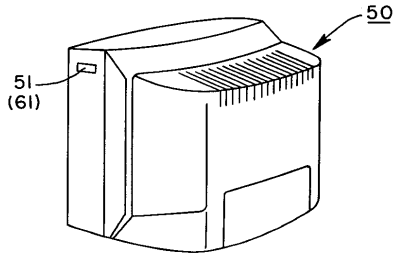
【図１１】



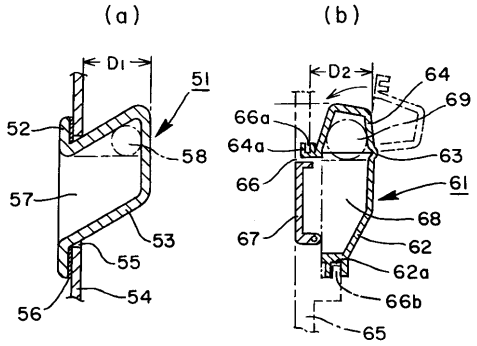
【図１２】



【図１３】



【図１４】


(a)
(b)
D1
D2
51
52
58
57
53
55
54
56
64
69
66a
64a
63
66
61
68
67
62
62a
66b
65

フロントページの続き

審査官　七字　ひろみ

(56)参考文献　実開昭５３－４８２８（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４８－７１７０３（ＪＰ，Ｕ）
特開平６－１０５２５８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A47B 95/02　503
A47B 95/02　505
H04N　5/64　571
H05K　5/00 - 5/06